

科目名	公共経営概論
担当者	(1)縣公一郎、(2)石田光義、(3)江上能義
配当学期	秋学期
単位	2単位
授業概要	<p>本講義は、公共経営一般、統治機構論、そして開発行政を専門とする教員3名によるオムニバス講義である。</p> <p>(1)公共経営の諸原理を理論的に概観した後、とりわけ、財政、政策、情報の参側面に関するマネジメントを議論する。その際、政府部門の財政機構と他部門との協力関係、政策形成に際しての政策情報、および政府部門を中心とした情報制度について概論する。また、時間の余裕を見て、消費税論議等、トピックに言及する。</p> <p>(2)ポストモダンが言われ、近代国家制度の見直しが求められている。近代国家の成り立ちを振り返り、近代国家の仕組みの変遷を整理し、これからの国家の在り方を展望する。その際、特殊日本の問題状況に結びつけながら考察を重ねたいと思っている。</p> <p>(3)講義のキーワードを「発展/開発」(development)として、人間社会の発展のあり方について以下の視点から論じる。</p>
授業の到達目標	公共経営理念の基礎を習得すると同時に、国内の様々な政府レベルの活動の体系性と相互関係、そして国際関係における一国政府の在り方について、概括的に理解することが求められる。
授業計画	<p>(1)公共経営の諸原理</p> <p>(2)財政マネジメント</p> <p>(3)政策マネジメント</p> <p>(4)情報マネジメント</p> <p>(5)近代国家がめざしたテーマは何であったか</p> <p>(6)近代国家成立後の大きな課題とその結末</p> <p>(7)近代国家の仕組みと変遷</p> <p>(8)ポストモダンが模索しているテーマ</p> <p>(9)日本の法治主義と法の支配と</p> <p>(10)戦後日本における全国総合開発計画の展開</p> <p>(11)科学技術の発展と民主主義</p> <p>(12)アジア諸国の国家形成と発展</p> <p>(13)グローバリズムと日本</p> <p>(14)総括・講評</p>
教科書	講義の中で適宜指示、あるいは必要な資料を配布する。
参考文献	講義の中で適宜指示、あるいは必要な資料を配布する。
成績評価方法	講義への出席状況、受講意欲、質疑応答等への貢献度により総合的に評価する。講義最終回に考査を行う。
関連 URL	
備考	本講義は、佐賀市から同時配信される形態の授業である。現地学生との積極的な意見交換が期待される。